

管路マネジメント 最適化技術を紹介

東亜グライウト工業
福島県研修会で講演

東亜グライウト工業（東京都新宿区、山口乃理夫社長）らは7月29日、福島県が福島テルサホール（福島市）で開いた研修会で、管路マネジメント最適化技術を紹介した。写真（東亜グライウ



ト工業提供）。人工衛星による漏水検知技術「アステラ」と、AI機械学習アルゴリズムで管路更新計画の最適化を支援するソフト「アセットアドバンス」を組み合わせて、水道事業のDX化に貢献するもの。同県のほか、東北や北関東の計7県の水道事業体職員らが参加。オンラインを含めて128人が受講した。

2024年度の「福島県水道事業技術力確保支援事業・研修会（管路管理）」として実施された。同社アスピグ事業部の結城啓治事業部長が、地理情報システム（GIS）データのAI活用による業務最適解と日本の水道事業の将来像を講演するとともに、アステラ・リカバーの概要と現場

実例を紹介した。
アセットアドバンスを展開するオプティマテイクスの篠田祐介氏は、AIによる更新計画支援技術を説明した。漏水調査や管路更新をテーマにしたグループディスカッションも行われた。

